



# 彼女と彼たち

\*KANOJOは家事がきらいで  
ふたりのKAREを愛している

\*KAREは母性本能がゆたかで  
KANOJOとKAREを愛している

\*もうひとりのKAREはピアノの天才  
KAREとKANOJOを愛している



彼女と彼たちの  
"幸福な三角関係"を描く  
女性監督セローの爽やかなデビュー作!

## なぜ、いけないの

POURQUOI PAS!

ジョルジュ・サドゥール賞 受賞 監督・脚本 コリーヌ・セロー  
エル誌読者選出シネマ大賞

サミー・フレイ  
クリスチーヌ・ミュロ  
マリオ・ゴンザレス  
ニコール・ジャメ  
ミシェル・オーモン  
マテ・スーヴェルビ

製作 ミューレ・ディ・トリ  
撮影 ジャン・フランソワ・ロバン  
音楽 ジャン・ピエール・マス  
DIMAGE + S.N.D 共同製作  
フランス映画・イースマンカラー  
フランス映画社提供 / ヴォウシリーズ



DESIGN MASAKATSU OGASAWARA

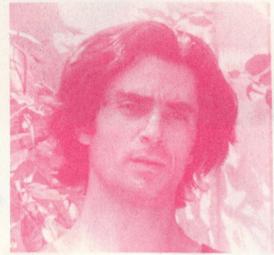


● KANOJOの名はアレクサ。しかしKAREたちは彼女のことを男のようにアレックスと呼ぶ。そのほうが手つとりばよくてハグレがよく、気だてのよさだけがとりえみたいな彼女の夫がいる円満なオクサンだったんだけれど。家出したのはいろんな理由がつもって自分でも説明がつかなくなったから。ひとつだけはっきりしたのは家事が苦手だったこと。今はKAREたちと幸福な三角関係。演ずるは新人クリスティーヌ・ミュリロ。

● KAREはフェルナン。KANOJOを愛し、もうひとりのKAREルイを愛する幸福な三角関係で、一家の主婦役を立派につとめている。料理、裁縫、洗濯に家計簿。元は妻と二児がいる平凡な家庭のパパだったが、母性本能にめぐまれすぎたためか、妻と喧嘩して家を追い出された。今も辛いのは2人の子供と会えないこと。せっせと、家の一隅に子供部屋をこしらえるいじらしさだ。KAREの欠点は美男であること。幸福な三角関係が四角になる危険をはらんでいる。演ずるは二枚目スター、サミー・フレイ。



● もうひとりのKAREはルイ。幸福な三角関係にも生活費は必要だ。主な稼ぎは、アレックスが寝たきりの老婦人に本を読むことで貰ってくる謝礼だが、ルイもナイト・クラブでピアノを奏いてささやかに貢献している。いや、本気になれば、ルイのピアノは天才的なのだが、母親から天才教育をうけたばかりに、本気になりすぎるとテンカンをおこす癖がある。3人の誰ひとり欠けても3人とも不幸になることを誰よりも知っている、心がやさしすぎる美少年。演ずるは、レディー・キラールの新人マリオ・ゴンザレス。



● シルヴィーがフェルナンに会ったのは、南仏カブールの砂浜で、金持のプレイボーイにふられて泣きじゃくっていた時のこと。喧嘩して、仲なおりして、母親に紹介して、数日一緒に暮らすうちに、シルヴィーは、フェルナンと結婚したいと思いはじめた。パリに帰ってフェルナンは、アレックスとルイに彼女を紹介するが、三人の関係をいきなり説明できるものでもなく、とはいえ、いったん言いそびれたために、シルヴィーには不可解なことが日毎にふえていく。演ずるは演劇から映画にデビューの清楚な女優ニコール・ジャメ。



# 彼女と彼たち

## なぜ、いけないの

### POURQUOI PAS!

監督コリーヌ・セロー ● カラー作品 ● パウ・シリーズ ● フランス映画社提供



【スタッフ】  
監督・脚本・台詞……………コリーヌ・セロー  
製作……………ミシェル・ディミトリー  
撮影……………ジャン=フランソワ・ロバン  
音楽……………ジャン=ピエール・マス

【キャスト】  
フェルナン……………サミー・フレイ  
アレクサ……………クリスティーヌ・ミュリロ  
ルイ……………マリオ・ゴンザレス  
シルヴィー……………ニコール・ジャメ  
プリカル刑事……………ミシェル・オーモン  
シルヴィーの母……………マテ・スーヴェルビ  
DIMAGE-S.N.D.共同製作 1977年作品  
フランス映画/イストマンカラー/ヴィスタサイズ  
5巻(2,637m) 1時間37分

1977年ジョルジュ・サドゥール賞受賞  
1977年エル誌読者選出シネマ大賞受賞

● 解説  
KANOJOとKAREとKAREがパリ郊外の一軒家でいとなむ3人の同棲生活。といつてもおなじみの危機をはらむ三角関係ではなく、「突然炎のごとく」のカトリックをめぐるジュールとジムの関係とも少しリーヌをめぐるこの映画「彼女と彼たち」では、精神的にはもちろん、肉体的にもKANOJOは、精神的にはKAREを愛し、KAREたちは、KANOJOとKAREを愛するバイ・セクシュアル。3人の間に嫉妬のかげらもなく、家計と生計は3人集まってなんとか一人前の、朝の風のように爽やかな共同生活だが……  
監督・脚本はこの映画が劇映画デビューの「コリーヌ・セロー」。この映画の前につくったドキュメンタリー「でも彼女たちは何がしたいの？」でウーマン・リップの運動家たちの注目を集めたが、音楽家で、女優で、今では第二のアニエス・ヴァルダと期待されている美女監督。余技が空中ブランコ。この映画でも1シーン出演して演技をひろう。この映画でも「ありえないことではない」という意味の「とかの英語題名はWHY NOT」。題名どおりパリでもニューヨークでも、予想を上まわる大ヒットをとばした。

次回ロードショー  
特別鑑賞券1100円

(当日一般1400円・学生1200円)  
●劇場窓口、都内各プレイガイド、大学生協にて  
●お問合せは梅メジャー(541)2508まで

日劇前  
有楽町  
ニュー東宝  
シネマ1  
(571)  
1946

平日	12:30	2:40	4:50	7:00	
日・祝	10:20	12:30	2:40	4:50	7:00

●スバル座お正月ロードショー決定!  
フェリーニの「カサバ」  
超大作